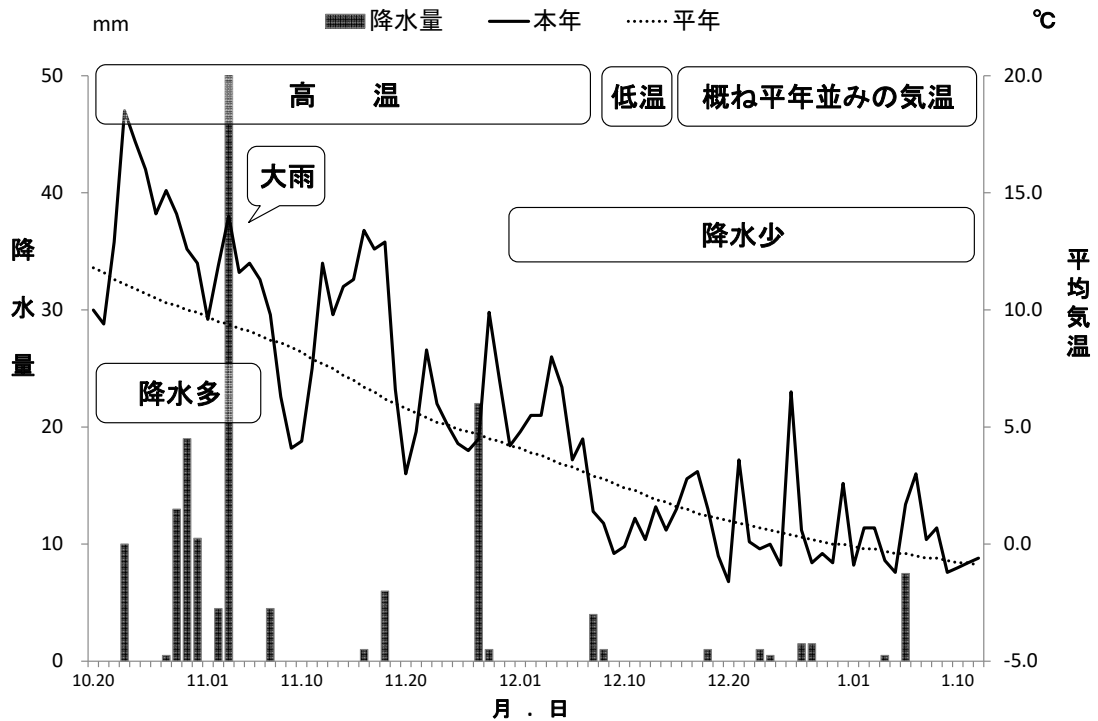


令和7年 作物技術情報第1号

(麦の越冬前生育状況について)

1 気象状況

令和6～7年 気象経過(穂高アメダス 10月20日～1月13日)



- ・ 10月下旬～11月は高温でした。12月中旬頃に低温の時期がありましたが、それ以降は概ね平年並みの気温で推移しています。
- ・ 10月末～11月上旬は降水量が多く、特に11月2日は大雨となりました。12月からは少雨傾向で推移しています。

2 麦の生育状況

【麦の播種状況】

- 播種作業は10月20日頃から播種されましたが、降雨により播種作業は一時中断され、11月7日頃から再開されました。
このため播種作業は平年より10日位遅れ、12月初旬に概ね終了しました。

【越冬前の生育状況】

- 10月末～11月初旬の降雨（特に11月2日は大雨）により出芽不良や出芽遅れ（滞水により覆土が固まり、出芽しにくい状況になった）等の湿害が発生した圃場が目立ち、圃場により葉令や生育量のばらつきが大きくなっています。
- 12月下旬における、管内の麦の生育状況は概ね以下のとおりです。

【 越冬前（12月下旬）の生育状況】

播種日	葉令	分けつ	生育	
10月下旬	3.0～4.0葉	1～2	やや過剰～並	
11月上旬	2.5～3.0葉	1～0	並～やや少	圃場による生育差大
11月中旬	1.5～2.5葉	0	やや少～少	圃場による生育差大
11月下旬	出芽始～1.5葉	0	少	

- 播種時期により差がありますが、大麦は3～4葉（分けつ1本前後）、小麦は2～3葉（分けつ0～1本前後）の圃場が多いと思われます。

全体的に生育量が不足しているため、2月下旬から始まる1回目の追肥が重要になると考えられます。1回目の追肥時期や追肥量は、麦の生育状況によって左右されますので、今後の気象や生育状況に注意が必要です。

- 2月上旬に越冬後の生育調査を実施します。調査結果は次回の技術情報でお伝えしますので、生育状況にあった追肥をお願いします。